



みんな ともだち



ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作 三木 卓 訳 文化出版局 E-0

かえるくんは、はるがきたことをしらせにがまくんのいえをたずねます。しかし、がまくんはベッドにねていました。がまくんをいえからおしだし、はるのあたたかなひかりをみせても、1 月^{がつ}からねむっていたがまくんは目^めをぱちくりさせ、ベッドにもどってしまいます。そして、「5 月^{がつ}のなかばごろになったらおこしてくれ」といい、またねむってしまいました。（『はるがきた』）

ピトゥスの動物園

サバステア・スリバス 著 宇野 和美 訳 あすなろ書房 959-ス

バルセロナ^{したまち}の下町に、なかよし六人組^{ろくにんぐみ}の男^{おとこ}の子^こがいました。ある日、六人組^{ろくにんぐみ}の一人^{ひとり}ピトゥスが重い病^{おも}気^{びょうき}になってしまい、なおすにはスウェーデンのえらい先生^{せんせい}のところ^いに行くしかないといわれます。そこで、下町^{したまち}の人^{ひと}たちはピトゥスをスウェーデンにつれていくためのお金^{かね}を集める計画^{けいかく}を立てました。なかま^なの五人^{ごにん}も自分^{じぶん}たちでお金^{かね}を集めようと、動物園^{どうぶつえん}をつくることにします。

ズボン船長さんの話

角野 栄子 作 福音館書店 913-カ

学校^{がっこう}が休み^{やす}の間^{あいだ}、ケンはお医者^{いしや}さんのすすめでおかあさんと海^{うみ}辺^べの町^{まち}ですごすことになりました。ある日^ひ岡^{おか}の上^{うへ}に、もと船長^{せんちょう}のおじいさんがひっこしてきます。ケンが船長^{せんちょう}さんの家^{いえ}にあそびにいくと、家^{いえ}の中^{なか}はまるで船^{ふね}のようで、船^{ふね}の名^なはズボン号^{ごう}だと教えてくれました。そして、ケンがテーブル^{うえ}の上^{うへ}にごちゃごちゃとおいてあるいろいろなもの^{もの}を見^みつけると、船長^{せんちょう}は「それは宝^{たから}ものだ」といって話^{はなし}をしてくれます。

アンディとらいおん

ジェームズ・ドーハーティ ぶん・え むらおか はなこ やく 福音館書店 Eード

よくはれたひ、アンディはとしょかんでらいおんのほんをかります。うちにかえると、むちゅうでそのほんをよみました。つぎのひ、アンディががっこうへむかっていると、いわのかげからなにかがつきでているのにきがつきます。ちかくへいってしらべてみると、それはらいおんでした。

ピクルスとともだち

小風 さち 文 福音館書店 913-コ

こぶたのピクルスと転校生のジンプは、あしたの日にようびにピクルスの家であそぶ約束をします。家へいく道がわかるかふあんなジンプのためにピクルスはじめんに地図をかき、その地図をジンプはじっと見つめていました。つぎの日、目をさましたピクルスはジンプがあそびにくるのがまちきれません。(『ピクルスとだいじな約束』)

こぎつねコンとこだぬきポン

松野 正子 文 二俣 英五郎 画 童心社 Eーフ

つばき山にすむきつねのコンは、ともだちがいません。そこで、うたをうたいながらともだちをさがしにでかけました。山のがけつづちまできたとき、コンはだれかがいっしょにうたっていることにきがつきます。よくみると、むこうのがけからだれかがこっちをみていました。

世界のあいさつ

長 新太 さく 福音館書店 385-チ

あいさつとは、人と人とのつながりをたしかめあうものです。おじぎや、からだにふれるあいさつもあれば、そんけいのきもちをつたえるあいさつもあります。日本人は、「いただきます」「ありがとう」という毎日のかんしゃのあいさつことばをよくつかいます。世界の人たちは、どんなふうにあいさつをしているのでしょうか。